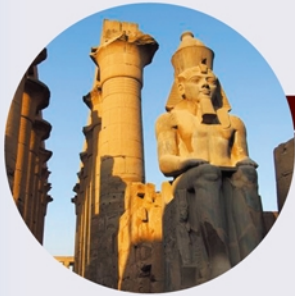


# 新発見 未知のエジプト



## カイロ

エジプトの首都カイロは、東洋と西洋が、そして歴史と現在が交差する魅惑の都市です。タハリール広場を中心とする新市街にはエジプト考古学博物館があり、ツタンカーメンの秘宝、歴代の王や王妃のミイラなど貴重な歴史的遺物が展示されています。新市街の東側にはモスクや廟などが立ち並ぶイスラム地域が、その南側にはコプト教の施設が多数あるカイロ発祥の地オールドカイロがあります。またカイロ近郊には世界の七不思議のひとつにも数えられるギザの3大ピラミッドやスフィンクスがあり、遺跡を舞台に古代の情景が描かれる幻想的な「音と光のショー」は必見です。さらに南にあるサッカラの階段ピラミッド、ダハシュールの屈折ピラミッドも見逃せません。



## ルクソール

数多くの世界遺産があり、さながら広大な野外博物館のようなルクソールには、ギリシアの大詩人ホメロスが「百門の都」と謳った古代エジプトの首都テーベがありました。アラブ人は荘厳で巨大な建築物に強く感動し、ここを「ルクソール＝宮殿の都市」と呼びました。太陽が昇るナイル川東岸は「生の都」と考えられ、ルクソール神殿、カルナック神殿、ルクソール博物館などがあります。対して日が沈む西岸は「死者の都」と考えられ、歴代のファラオが眠る王家の谷、王妃の谷、貴族の墓、メモノンの巨像、ハトシェプスト女王の葬祭殿、ラムセス2世の葬祭殿であるラムセウムなどのモニュメントが残されています。



## エジプト実用旅行ガイド 未知のエジプトへ旅立つまえに、覚えておくと便利です。

**気候** エジプトには4つの気候区分があり、アレキサンドリアの海岸地帯は地中海性気候、カイロ周辺では半砂漠性気候、ナイル・デルタ地帯は地中海性気候、そして南部は砂漠性気候です。9月末から11月始めは北部から南部まで気温が25~35℃と穏やか。12月中旬から2月中旬は北部ではかなり涼しくなります。3月から4月はあまりはつきりせず、砂嵐（ハム・シーン）が吹くことがあります。6月から9月は気温がかなり高くなります。

**通貨** 通貨はエジプトポンド（LE または EGP）で1ポンドは100ピアストルです。空港到着時や、ホテルなどで両替ができます。大きな町やホテルでは大手カード会社のATMを利用することもできます。エジプトポンドは一般的に日本で両替はできませんので注意が必要です。

**言語** 公用語はアラビア語ですが、英語とフランス語は多くの場所で通じます。特に観光地では問題ありません。紅海沿岸のホテルの多くではドイツ語も通じます。

**食事** 屋台の食べ物から豪華なホテルの食事まで、エジプトでは好みと予算に合わせた食事を楽しむことができます。ベリーダンス・ショーを見せるレストランやディナー・クルーズもあります。イスラム教は飲酒を禁じてますが、観光客はアルコールを楽しむことができます。

**チップ** チップ（バクシーシ）はエジプトで広く浸透している慣習です。これはその大小にかかわらず何らかのサービスをした者への感謝の意として渡すものです。

**写真** 博物館や墓室内は撮影が禁止されており、撮影が許可されている場合（持込み料金がかかる場合があります）でも、遺跡や遺物の保護のためにフラッシュ（ストロボ）撮影は禁止されています。写真を撮る前にガイドなどに尋ねるとよいでしょう。

**ショッピング** 工芸や手芸の文化が豊かです。吹きガラス、陶磁器、宝飾類、刺繍やパッチワーク、パピルス、絨毯、象眼細工など、様々な商品がスークや市中の商店、ギャラリーで販売されています。

